



Sagrada Familia -聖家族-

# サグラダ ファミリア

2026年1月18日号  
発行：カトリック水戸教会 広報部

## 【待降節黙想会まとめ】指導司祭：淳心会 オノレ神父様

2025年12月14日、カトリック水戸教会で行われたオノレ神父様による黙想会は、「恐れるな。主が共におられる」という希望のメッセージを軸に進められました。冒頭では、黙想に入る心構えとして、すべてを理解しようとせず、神が自分に向けて語られる言葉を受け取れるよう祈りつつ、呼吸を整え心身を静めることができました。呼吸そのものが神の名「ヤハウェ」を呼ぶ行為であり、人は生まれてから死に至るまで、神に生かされ続けている存在であることが示されました。現代社会に満ちる不安や孤独、自己否定の中、希望の源は神にある。イザヤ書40章を中心、「恐れるな。主を待ち望め」という言葉が、バビロン捕囚という絶望の歴史の中で語られた慰めであることが解き明かされました。神は罰ではなく愛をもって民を顧み、「あなたはわたしの目に高価で尊い」と

### 【四旬節黙想会のお知らせ】

3月1日・四旬節第2主日に四旬節黙想会があります。指導司祭はイエズス会の川村信三神父様です。川村神父様は前日2月28日に来水され、土曜夜のミサを司式、3月1日のミサを司式していただいた後、午前中に講話、昼食をともにして午後からはゆるしの秘跡、という予定になっています。テーマ等は続報をお待ちください。

宣言されます。その愛は、キリストの十字架によって私たちの罪が覆われ、洗礼により「キリストを着る者」とされたことにより確かなものとなっているのです。

聖書に366回繰り返される「恐れるな」という言葉は、神が毎日共にいてくださる約束であり、弱さの中でこそ神の恵みが働くと語られました。年末にあたり、神との関係、他者との関係、自然との関係を省みることの大切さ、また罪の本質は責任転嫁にあることが示され、自らの過ちを認める謙遜が求められました。最後に、聖書を日々読み、神に愛されている者として愛を実践し、置かれた場所で希望をもって福音を証しする生き方が励ましとして示されました。

オノレ神父様。わかりやすく、エネルギーに溢れた、すばらしいお話をありがとうございました。

広報部／〇〇〇〇

### 【VATICAN NEWSから】聖年閉幕

教皇レオ14世は、2026年度の「主の公現」の祭日、バチカンの聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」を開じる儀式をとり行われ、これによって、2024年12月24日に始まり、1年あまりにわたり記念された「聖年」が閉幕した。

[記事全文 VATICAN NEWS日本語版は]



## 【典礼部だより】ミサ曲について①～「いつくしみの賛歌（キリエ）」～

去る12月28日・聖家族の祝日のミサでは、インドネシア共同体の皆さんがあなたが美しい歌声でラテン語のミサ曲を歌唱奉仕してくださいました。いい機会なので、これから何回かに分けて「ミサ曲（ミサの賛歌）」について取り上げていきたいと思います。第1回は開祭で歌う「いつくしみの賛歌（キリエ）」から。

この賛歌の原文（『ローマ・ミサ典礼書』ラテン語規範版）は、Kyrie eleison./Christe eleison./Kyrie eleison.です。ギリシア語のとても古い祈りで、4世紀のエルサレムで子どもたちが晩の祈りの中で唱えていた記録があるといいます。『新しい「ミサの式次第」と「ミサの賛歌」の旋律』（緑の冊子）にもカタカナ表記で606・611・616番として載っていますね。日本語のカトリック典礼でギリシア語が歌われることがあるのは、この3つの「いつくしみの賛歌（キリエ）」と典礼聖歌集334「ハギオス・ホ・テオス」だけでしょう。

以前、この賛歌は「あわれみの賛歌」とされていて日本語訳も「主よ、あわれみたまえ／キリスト、あわれみたまえ／主よ、あわれみたまえ」だったことを覚えておいでの方も多いと思います。「あわれみたまえ」が「いつくしみを」に改訳された背景には、「eleisonという語の深さを表す」「この歌が単なる嘆願ではなく賛歌であることを示す」などの意図があったといいます。詳しくは日本カトリック典礼委員会編『感謝の祭儀を祝う新しい

「ミサの式次第」解説』という安価で分かりやすい本がありますのでぜひご一読ください。

「いつくしみの賛歌（キリエ）」は直前の「回心の祈り」と深い関係があります。例えば、『ミサ式次第【会衆用】簡易版』3ページには『回心の祈り三の場合はいつくしみの賛歌は省く』とありますが、祈りのことばを見て分かる通り、これは「回心の祈り三」の中に「いつくしみの賛歌（キリエ）」が含まれているためです。また、灰の水曜日では「灰の式」、復活の聖なる徹夜祭では「洗礼式」ないし「洗礼の約束の更新」という回心の式がありますから、重複を避けて「回心の祈り」はなく、「いつくしみの賛歌（キリエ）」も歌いません。さらに『回心の祈りの代わりに、時には洗礼を思い起こすために水の祝福と灌水を行うこと』（『ローマ・ミサ典礼書の総則』51）もでき、そうした場合も「いつくしみの賛歌（キリエ）」は歌いません。昨年1月と5月、水戸教会において司教様司式で捧げられた聖年のミサを思い出していただければと思います。

少し逆説的ですが「いつくしみの賛歌（キリエ）」が「回心の祈り」を通して「洗礼」と深く結びついているのがお分かりでしょうか。回心して洗礼を受けることこそ信者としての第一歩。「回心の祈り」「いつくしみの賛歌（キリエ）」は、自分自身の洗礼を思い起こすための祈り／賛歌でもあるのだと思います。